

4/27 利用者70万人を突破
サンゆうプールでセレモニー

長岡温水プールサンゆうは、開設12年を経て利用者70万人を突破しました。館内では、記念セレモニーを開き、節目の入館者に花束や記念品を贈りました。70万人目の利用者は、伊豆市在住の水野広美さん。同プールには、健康維持のため毎日のように通っているそうです。

同プールは、平成11年4月にオープン。年間5万人前後の利用で推移しています。近年は、各種教室や施設の充実などにより、利用者は増加傾向にあります。

みなさんもぜひ利用してみてくださいいかがでしょうか。



70万人目の入館者に記念品が贈られました



お礼が書き込まれたジャンパーや色紙を紹介する須田さん

4/28 被災地で洗濯ボランティア
東静岡電気、活動を市長に報告

市内にある業務用洗濯機メーカーの東静岡電気(株)は、東日本大震災で被災した宮城県多賀城市で20日間にわたり『洗濯ボランティア』活動に励みました。避難所の衛生状態の改善が目的。中心となって活動した須田雅太郎さんをはじめ社員は、その活動を市長に報告しました。

業務用洗濯機1台と乾燥機2台を積んだ車両で避難所を回り、一日中機械を稼働。整理券を配るときは、希望者が殺到したそうです。毛布等のほか、津波で流された泥だらけの衣類を洗濯することもあったそうです。須田さんは、「みんなの支えもあって活動できた」と振り返りました。



採りたての新鮮イチゴに大満足

5/5 絶好のいちご狩り日和
江間・伊豆長岡いちご祭り

『いちご祭り』は、市の特産物のイチゴを観光客や市民に広くPRするためのイベントで、毎年この時期に行っています。当日は、好天にも恵まれ、前年を5割上回る約5000人の来場者でにぎわいました。

特別入園料金でいちご狩りが楽しめるため、参加者は甘い香りが漂うイチゴハウスの中で、汗をかきながらも口いっぱいイチゴを頬張っていました。

このほか、江間いちご狩りセンターでは、ジャム作り体験、動物ふれあい広場、マスのつかみ取りなども行われ、ゴールデンウィークのひとときを満喫していました。



市民からの質問にわかりやすく応える金山さん

5/13 安全な野菜作りを目指し
農土香塾スタート

資源循環型社会を推進する安全・安心・健康のまちづくり事業の一環として、一般市民が野菜作りについて学ぶ『農土香塾』が旧大仁東小学校でスタートしました。

この日は、有機野菜の育て方や土作りなど野菜作りに関する疑問を相談する『有機野菜よろず相談』を行いました。

市民からの質問に、農土香塾顧問の金山重信さんが、資料や黒板を利用しわかりやすく応えました。

相談は毎月行われ、そのほか各種講座等も開かれます。みなさんも安全安心でおいしい野菜を作りませんか。詳しくは、裏表紙を参照。



水の安定供給などを祈願する参列者(宗光寺水神地)



多賀城市の皆さんを旅館で出迎え、あいさつをする市長(第2陣到着時)

5/1~6/30 温泉で震災の疲れ癒して
伊豆の国市に多賀城市の皆さんを招待

市では現在、東日本大震災で被災した宮城県多賀城市の皆さんを招待し、市内の旅館を一時的な避難場所として数日間滞在していただく、『被災者避難場所提供事業』を行っています。

すでに5月中旬に、参加者第1陣として10世帯・19人、第2陣として16世帯・18人の多賀城市の皆さんが訪れ、サービスの提供を受けました。

この事業の目的は、温泉に浸かりながら伊豆の国市でのんびり過ごすことで、避難生活の疲れを癒していただくことです。滞在中、多賀城市の皆さんは温泉で体を癒しつつ、江川邸や葦山反射炉などの市内観光音頭保存会など伊豆の国市民との交流を楽しみました。またボランティアによる生活支援や、希望者は保健師による健康相談、手芸教室などのサービスも受けました。

参加した皆さんにアンケートを

PHOTO
ぎやらりー



多賀城からバスで伊豆の国へ

伊豆の国市音頭保存会との交流会(第1陣)

江川邸など観光施設を見学

4/26 これからもおいしい水を
下畑・宗光寺で水神祭

下畑水源地和宗光寺水神地の2か所で『水神祭』が執り行われ、市上下水道協同組合や市長、市議、地元関係者ら約30人が参列しました。

宮司の祝詞奏上に続き、参列者が玉ぐしを捧げると、一同は、豊かな水の恵みに感謝し、水の安定供給などを祈願しました。参列者を代表して飯田俊治理事長は「今後も良質な水を安心して安定供給できるように行政と協力して取り組んでいきたい」とあいさつしました。

古くから大仁地区の水源地だった2カ所。もともとは、両区民により水神祭が行われていました。現在は、市上下水道協同組合が主催しています。